

<報道発表資料>

令和7年9月4日
京都市交通局自動車部運輸課

京都市交通局／市バス「観光特急バス」の 令和7年度 JCOMMプロジェクト賞受賞

京都市交通局では、市民生活と観光の調和に向けた市バスの混雑対策を重要課題の一つに掲げており、その一環として、令和6年6月実施の市バス新ダイヤにおいて、改正された国の制度を全国で初めて活用し、京都駅と東山エリアの観光スポットを結ぶ「観光特急バス」の運行を開始しました。

この度、観光特急バスの運行に係る取組が、日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）の「令和7年度 JCOMMプロジェクト賞」を受賞しました。

【受賞プロジェクト】

～日常生活を中心とした「市民利用」と「観光利用」の棲み分けを目指して～
京都市交通局／市バス「観光特急バス」の運行
詳しくは、別紙をご覧ください。

【受賞者】

京都市交通局

【主催】

一般社団法人 日本モビリティ・マネジメント会議



（観光特急バス）

【授賞式／プログラムの概要】

●日程

令和7年9月12日（金）、13日（土）

●会場

北海道札幌市 札幌コンベンションセンター

●参加者

授賞式へは、京都市交通局自動車部長の児玉宜治の出席を予定しています。

●展示発表

第20回 日本モビリティ・マネジメント会議の会場内において、本プロジェクトに関する展示発表を予定しています。

【選定理由】※1

改正された国の制度を全国で初めて活用し、一般路線バスとは異なる運賃体系を採用した「観光特急バス」を運行している点が高く評価されました。またこの取組により、並行する一般路線の待ち時間短縮や混雑緩和といった、市民生活と観光の調和に繋がる効果が確認されており、オーバーツーリズムに悩む他の地域において、有効な対策のモデルケースとなることが期待され、JCOMM プロジェクト賞に選定されました。

<用語について>※2**・モビリティ・マネジメント（MM）**

モビリティ・マネジメント(Mobility Management, 略称 MM)とは、渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを『かしこく』使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのことを意味します。

・日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）

MM の実務的実例や学術的実験の事例は、1990 年代後半から、日本国内外で様々に蓄積されつつあります。ここで、それぞれの MM の取り組みをさらに望ましいものとするためには、個々の実例に携わった実務や行政、研究者が積極的に情報交換を綿密に重ねていくことはとても重要です。こうした認識の下、本来あるべき適切な形の MM を、効果的に広範に推進されることを支援するために、国土交通省と（社）土木学会とが共同主催をする形で、様々な立場の MM 関係者が一堂に会する日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）が、定期的に行われることとなりました。

（※1、※2：日本モビリティ・マネジメント会議のホームページより）

<お問合せ先>

京都市交通局 自動車部運輸課

電話：075-863-5132

～日常生活を中心とした「市民利用」と「観光利用」の棲み分けを目指して～ 京都市交通局／市バス「観光特急バス」の運行

■ 背景と目的

京都市交通局では、市民生活と観光の調和に向けた市バスの混雑対策を重要課題に掲げています。令和6年6月実施の「市バス新ダイヤ」では、通勤や通学、買い物などの市民利用を守りつつ、観光客のニーズにも応える路線・ダイヤ編成を進めました。この取組の一環として、改正された国の制度を全国で初めて活用し、京都駅と東山エリアの観光スポットを結ぶ「観光特急バス」を新設しました。このバスは一般系統とは異なる運賃を適用し、観光利用に便利なサービスを提供することで、市民利用の路線の混雑緩和を図ろうとするものです。

■ プロジェクトの内容

運行系統は、京都駅と観光地（清水寺・祇園・銀閣寺）を結ぶ2つのルートとし、停車停留所を観光地の最寄りに限定することで速達性を向上させています。運行は土曜・休日ダイヤで48便／日を設定しています。運賃は大人500円で、現金やICカード（PiTaPa、ICOCA、Suicaなど）に加え、地下鉄・バス1日券や京都修学旅行1dayチケットもご利用可能です。

なお、定期券、回数券、敬老乗車証、福祉乗車証は対象外としています。

■ 効果

観光特急バスの運行開始後、利用状況やアンケート調査を通じて効果検証が行われ、以下のような点が明らかになりました。

- (1)並行する一般系統の待ち時間の短縮や混雑の緩和に一定程度寄与していること
- (2)一般系統とは別の運賃設定は利用者に受け入れられていること
- (3)並行する系統に対して速達性が認められ、お客様の満足度も高いこと

これらの調査は継続的に実施し、得られたデータを基に適時適切な改善を行うことで、観光特急バスの更なるサービス向上に努めています。

■ 結論

京都市における観光特急バスは、国の新しい制度を活用して一般系統とは異なる運賃設定による観光客向けの系統を新設し、市民利用の多い系統の混雑緩和を図る新たな試みとして運行を始めました。各種調査の結果からも、市バスの混雑対策として一定の効果が確認できたところです。この取組は全国初の試みとして新規性を有するとともに、国内の他地域でも旅行者の増加に伴う乗合バスの混雑が課題としてクローズアップされている中、その解決策のモデルケースとなる可能性があるものと考えています。